

研究例会

日程	タイトル	発表者
2025 年 7 月 18 日	日本の再分配政策の支持・選好— 2040年将来像の描き方	田中 聡一郎（本研究所特 任研究員）
2025 年 6 月 11 日	掃除の仕方を教えること／学ぶこ と——活動のなかで「見る」こと について	須永 将史（本研究所特任 研究員）
2025 年 1 月 25 日	占領期民生委員に関する役割の変 化——埼玉事件に着目して	青木 尚人（本研究所特任 研究員）
2025 年 1 月 17 日	多摩あおば病院における退院促進 と精神保健福祉法改正	松原 玲子（本研究所研究 員）
2024 年 10 月 30 日	『がん患者の集団になにができる か——肺がんの罹患経験の社会学』 合評会	菅野 摂子（本研究所特任 研究員）
2024 年 7 月 8 日	社会保障給付に関する行政の広報・ 周知義務について	神橋 一彦（本研究所所員）
2024 年 6 月 28 日	障害とアートの表象——新聞報道 の言説分析	和久井 碧（本研究所研究 員）
2024 年 5 月 31 日	近現代日本の「家庭」とは何だった のか——明治期以降の「家庭」論の 系譜	本多 真隆（本研究所所員）
2024 年 1 月 20 日	民主主義を追い出す——新自由主 義の「政治」へのインパクト	一ノ瀬 佳也（本研究所特 任研究員）
2024 年 1 月 20 日	「ハルモニ」とインターセクショナ リティ——川崎市ふれあい館高齢 者事業ウリマダンを事例として	小松 恵（本研究所研究員）
2023 年 10 月 30 日	アイスランドにおけるジェンダー 平等はいかにして可能か	浅井 亜希（本研究所特任 研究員）
2023 年 6 月 17 日	入管収容施設および非正規滞在外 国人を取り巻く問題について	三浦 萌華（本研究所事務 局）
2023 年 5 月 22 日	がん患者の集団になにができるか ——肺がん患者たちの経験にもと づいて	齋藤 公子（本研究所研究 員）
2023 年 1 月 21 日	誰もが性的人間として生きるため に——知的障がいと性——	河東田 博（本研究所元所 員）
	「ピアの継承」から「社会への継承」 へ～乳がん経験者の語りから～	菅森 朝子（本研究所所員）

2022 年 10 月 26 日	ケイパビリティ・アプローチの観点から考えるパラリンピックと障害者スポーツ参加	前田 有香（本研究所研究員）
2022 年 6 月 29 日	戦前期有給吏員とは何者なのか―社会事業主事・主事補を中心に―	青木 尚人（本研究所研究員）
2022 年 4 月 25 日	長時間介護サービスを利用する障害者の「生きづらさ」と介護関係に関する研究	金 在根（本研究所特任研究員）
2022 年 1 月 22 日	新生児医療における治療方針の決定に関する「話し合い」に内在する課題	土屋 裕子（本研究所特任研究員）
2021 年 10 月 11 日	団地の再生の潮流と「高島平団地」の現在、居住者の意識と今後	野呂 芳明（本研究所所長）
2020 年 10 月 10 日	① 乳房再建は何をもたらすのか―乳がん経験者の語りから― ② 就学援助制度における自治体の参照行動	① 菅森 朝子（本研究所研究員） ② 関根 未来（本研究所研究員）
2019 年 11 月 6 日	肺がん患者たちの集団はいかなる活動を展開しているか―「アドボカシー活動」を中心として―	齊藤 公子（本研究所研究員）
2019 年 5 月 30 日	日本の中間層と再分配政策	田中 聡一郎（本研究所特任研究員）
2019 年 2 月 2 日	① 長時間介護サービスを利用する障害者の「生きづらさ」と介護関係に関する研究 ② 「河内山哲朗オーラル・ヒストリー」を読む―「地方分権改革」・「三位一体の改革」への証言を手掛かりに―	① 金 在根（本研究所特任研究員） ② 新嶋 聡（本研究所研究員）
2018 年 11 月 15 日	保健医療社会学におけるエスノメソドロジー研究―病院のワークの研究と病の語り研究を中心に―	前田 泰樹（本研究所所員）
2018 年 6 月 1 日	① 人と動物の関係性の社会学―Human-Animal Studies (HAS) と批判的実在論― ② これまでの自身の研究についての報告	① 梶原 はづき（本研究所研究員） ② Lucero Noyola（本研究所研究員）

2018 年 1 月 20 日	① 技官たちの公害対策－厚生省環境衛生局の新設－ ② 韓国における国民年金の成立過程	① 新嶋 聡（本研究所研究員） ② 金 敏貞（本研究所研究員）
	③ 身体接触による性別の話題化－足湯ボランティア活動の相互行為分析－	③ 須永 将史（本研究所所員）
2017 年 9 月 25 日	高齢妊娠の現状と課題	菅野 摂子（本研究所特任研究員）
2017 年 7 月 7 日	患者の意思決定における尺度とその統計解析手法－日本語版 Decision Regret Scale を中心に－	丹野 清美（本研究所所員）
2017 年 5 月 19 日	公衆衛生の対象としての精神障害者支援	酒本 知美（本研究所特任研究員）
2017 年 1 月 18 日	① 職場における妊娠・出産の権利－マタニティ・ハラスメント防止措置義務化を受けて－ ② フェミニズムのジェンダー概念と性科学のジェンダー概念 ③ デンマークフレキシキュリティ研究の現在	① 杉浦 浩美（本研究所特任研究員） ② 須永 将史（本研究所所員） ③ 菅沼 隆（本研究所所長）
2016 年 10 月 17 日	公債を支えた人々－坂本優一郎『投資社会の勃興－財政金融革命の波及とイギリス』を読んで－	一ノ瀬 佳也（本研究所特任研究員）
2016 年 7 月 29 日	韓国における国民福祉年金の成立と延期	金 敏貞（本研究所研究員）
2016 年 1 月	① 障害者の貧困立と所得政策の現状 ② 佐口卓氏と社会保障制度審議会－「佐口蔵書」審議会資料より－ ③ デンマークのフレキシキュリティの「その後」	① 百瀬 優（本研究所特任研究員） ② 新嶋 聡（本研究所研究員） ③ 菅沼 隆（本研究所所長）
2015 年 10 月	少子化対策におけるエンゼルプランの意義に関する考察	浅井 亜希（本研究所特任研究員）

2015 年 9 月	生活保護と医療—生活保護開始前後の医療機関受診の分析を中心に—	大津 唯（本研究所所員）
2015 年 7 月	環境倫理と福祉	河野 哲也（本研究所所員）
2015 年 5 月	ケアと貨幣—障害者自立生活運動	深田 耕一郎（本研究所所員）
	における介護労働の意味—	
2015 年 1 月	① 「国民皆年金」形成過程の証言—厚生官僚追悼集のアーカイブズ的研究— ② 公害審議会と厚生官僚—技官研究への足掛かりとして— ③ 日本の社会保障の歴史メモ（成文堂『社会保障論』）	① 田中 聡一郎（本研究所特任研究員）、新嶋 聡（本研究所研究員） ② 新嶋 聡（本研究所研究員） ③ 菅沼 隆（本研究所所長）
2014 年 11 月	パラリンピック競技者におけるスポーツ施設のアクセシビリティの現状について	前田 有香（本研究所研究員）
2014 年 10 月	医療保険の分立と国民健康保険の諸課題	大津 唯（本研究所所員）
2014 年 7 月	デンマークにおける雇用形態の多様化と労使関係	菅沼 隆（本研究所所長）
2014 年 6 月	健康礼賛の功罪—健康で前向きに生きなければならない現代社会—	三澤 仁平（本研究所所員）
2014 年 6 月	ハンナ・マレネ・デール教授を囲む研究会	ハンナ・マレネ・デール（教授）
2014 年 5 月	グローバル経営課の労使関係—ドイツと日本の自動車産業を対象に—	首藤 若菜（本研究所所員）
2013 年 10 月	障害者の自立生活と「あきらめ」について—CIL に勤務する肢体不自由者の自立生活前後の「あきらめ」に焦点をあてて—	金 在根（本研究所研究員）
2013 年 7 月	『自立と福祉』合評会	所員・研究員
2013 年 5 月	精神科ソーシャルネットワークの「先駆性」とは—福祉研の歩みとの関連をふまえて—	福富 律（本研究所研究員）

2013 年 1 月	立教 SFR 自由プロジェクト研究「自立と福祉をめぐる制度・臨床への学際的アプローチに関する研究」研究報告会	SFR 研究分担者
2012 年 11 月	当事者の語り合いからうまれる「自画像」—支配的文化の理性に対する	鈴木 隆雄（本研究所研究員）
	批判—	
2012 年 7 月	知的障害で性同一性障害（FtM）当事者のセクシュアル・アイデンティティ形成—人びととの〈相互作用〉がセクシュアル・アイデンティティ形成に与える影響—	杉崎 敬
2012 年 5 月	① 生活保護自立支援プログラムと行財政 ② 被保護精神障害者への支援策に関するアンケート結果 ③ 退院促進事業の事例分析	① 田中 聡一郎（本研究所所員） ② 百瀬 優（本研究所研究員） ③ 酒本 知美（本研究所研究員）
2012 年 1 月	① 自立をめぐる哲学的考察：障害の当事者の自立と平等 ② 自立概念の再検討—臨床社会学のアプローチから— ③ デンマークにおける障害者所得保障制度—障害者と経済的自立— ④ 生活保護と障害者 ⑤ スウェーデンと日本の障害者支援から見る自立—支援者が阻む自立— ⑥ 母子家庭対策からみる自立と地域—子どもの福祉と教育保障の視点からの考察— ⑦ 精神保健福祉政策からみる自立と地域	① 河野 哲也（本研究所副所長） ② 深田 耕一郎（本研究所研究員） ③ 菅沼 隆（本研究所所員） ④ 田中 聡一郎（本研究所所員）、百瀬 優（本研究所研究員） ⑤ 河東田 博（本研究所所長） ⑥ 湯澤 直美（本研究所所員） ⑦ 酒本 知美（本研究所研究員）

2011 年 12 月	① 震災後の地方財政と社会保障 ② 福祉と贈与—ある全身性障害者の自立生活にかんする社会学的研究—	① 田中 聡一郎（本研究所所員） ② 深田 耕一郎（本研究所研究員）
2011 年 11 月	厚生労働白書にみる我が国の精神保健福祉施策と入院者からみる精神科病院	松原 玲子（本研究所研究員）
2011 年 7 月	ジェンダー・家族政策をめぐる福祉	浅井 亜希（本研究所研究員）
	国家の比較政治学的分析	
2011 年 5 月	福祉と闘争—戦後日本における全身性障害者の公的介護保障要求運動にかんする社会学的研究—	深田 耕一郎（本研究所研究員）
2011 年 1 月	① デンマークの失業保険—失業金庫とフレキシキュリティー ② 障害者とセーフティネット ③ 十勝圏域における精神保健福祉領域の地域生活支援システム構築の過程	① 菅沼 隆（本研究所所長） ② 田中 聡一郎（本研究所所員） ③ 酒本 知美（本研究所研究員）
2010 年 7 月	障害年金に関する論点整理	百瀬 優（本研究所研究員）
2010 年 5 月	労働と身体をめぐる—考察—『働く女性とマタニティ・ハラスメント』を中心に—	発表者：杉浦 浩美（本研究所研究員） コメント：佐川 佳南枝・三具 淳子・菅野 摂子・深田 耕一郎（すべて本研究所研究員）
2010 年 1 月	① 人口問題にみる福祉国家の比較政治—スウェーデン・フランス・イギリス— ② 精神科病床数削減のための指標—十勝圏域の医療扶助からの考察— ③ 戦争の記憶が語られる場—認知症高齢者たちの語りあいから—	① 浅井 亜希（本研究所研究員） ② 酒本 知美（本研究所研究員） ③ 佐川 佳南枝（本研究所研究員）
2009 年 12 月	障害者と生活保護	田中 聡一郎（本研究所所員）
2009 年 11 月	デンマークのフレキシキュリティー	菅沼 隆（本研究所所長）

2009 年 7 月	ノーマライゼーション原理誕生史と脱ノーマライゼーションスウェーデンからの風—	河東田 博（本研究所所員）
2009 年 1 月	① 大学内における発達「障害」を抱えた学生への就職支援に関する研究 ② 十勝圏域における精神科病床数削減の要因分析からみる地域生	① 片岡 彩（本研究所研究員） ② 酒本 知美（本研究所研究員） ③ 松繁 卓哉（本研究所研
	活以降への指標—帯広市・十勝圏域における保健年報の変化から— ③ 「患者中心の医療」言説のダイナミクス—患者・医師の「知」と関係性—	究員）
2008 年 10 月	贈与としての社会福祉—公的介護保障要求運動の実践を事例に—	深田 耕一郎（本研究所研究員）
2008 年 7 月	給付つき税額控除の国際的動向	田中 聡一郎（本研究所所員）
2008 年 6 月	ユニバーサルデザインとアシスティブテクノロジーの科学技術理論	河野 哲也（本研究所所員）
2008 年 1 月	① ジェンダー理論の展開—英文ジャーナル（2000～2007 年夏）5 誌のサーベイより— ② イ ギ リ ス Expert Patient Program に見る「素人専門家（lay expert）」としての患者像—その可能性と課題— ③ 精神科デイケアにおけるグループワークの試み—SST と比較しながら— ④ デンマークの平均寿命はなぜ短いのか？	① 三具 淳子（本研究所研究員） ② 松繁 卓哉（本研究所研究員） ③ 松森 大（本研究所研究員） ④ 菅沼 隆（本研究所所長）
2007 年 11 月	被虐待経験を持つ子どもの心理コンサルテーションについて	加藤 尚子（本研究所所員）
2007 年 7 月	福祉社会の行方と地域政策について—覚え書き—	野呂 芳明（本研究所所員）

2007 年 6 月	立教大学総合研究センタープロジェクト報告 女性の就業継続に関する調査研究—妊娠期の職場環境と出産後の保育の見通しに着目して—	杉浦 浩美（本研究所研究員）
2006 年 11 月	自著を語る—『被占領期社会福祉分権』（ミネルヴァ書房、2005）を振り返って—	菅沼 隆（本研究所所員）
2003 年 7 月	科学研究費補助報告 児童福祉施設におけるアセスメント作成	福山 清蔵（本研究所所長）
2003 年 6 月	心理・社会臨床における“事例研究”再訪（1）	佐藤 悦子（本研究所所員）
2001 年 4 月	外国人の子どもの保育 2—新宿区内保育所の保育者へのアンケート調査より—	
2000 年 10 月	知的障害者施設でのワークキャンプでの経験を通して	
2000 年 7 月	外国人の子どもの保育—保育所入所に関する東京都内三区の比較調査より—	
2000 年 5 月	高齢入院者の退院援助および在宅サービスの連携における課題—自宅退院のマネジメント・プロセスに関する事例研究—	
1999 年 10 月	保険・医療システムにおける心理・社会的援助について—自己決定から考える—	
1999 年 7 月	少年保護における自由権保障と社会権保障の葛藤	
1998 年 10 月	育児教育の視座	
1998 年 7 月	日本におけるドメスティック・バイオレンスの現状と課題	
1998 年 4 月	障害者を抱える家族の援助	
1998 年 1 月	『四方福祉』を問い直す	
1997 年 10 月	公的介護保険制度の導入と社会福祉	

1997 年 7 月	社会福祉における情報化の意義と課題	
1997 年 4 月	高齢糖尿病患者のグループ心理療法の試み	
1997 年 1 月	幼保一元について	
1996 年 10 月	福祉サービス導入と家族機能－ホームヘルパーサービスの利用をめぐって－	
1996 年 7 月	乳幼児の対人関係と“自己”の形成	
1996 年 4 月	教護院について	
1996 年 1 月	在宅障害者について	
1995 年 10 月	補導委託について	
1995 年 6 月	ピア・カウンセリングについて	